

天理参考館

ニュースレター

天理大学附属天理参考館

発行日：2010.3.24

発行：天理大学附属天理参考館

編集：広報普及

創立80周年記念特別展

神々の物語が息づく メキシコ

古代文明の記憶

◇会期／4月14日(水)～8月9日(月)
◇会場／3階企画展示室・他

天理大学附属天理参考館は、1930(昭和5)年、天理外国語学校(現天理大学)の一室に前身である海外事情参考品室として産声を上げてから、今年でちょうど80年目を迎えました。当館では、創立80周年を記念した特別展を今年から来年にかけて続々と開催する予定です。

まず、その第一弾として「神々の物語が息づくメキシコー古代文明の記憶ー」を開催します。

メキシコは、マヤやアステカなど謎に満ちた文明が栄えた地としてよく知られています。その後のスペインの植民地支配により、多くの伝統文化は消滅や変容を余儀なくされてしまいましたが、かつての栄華の記憶は今でも人々の心の中に息づいています。



副葬用神像形香炉
オアハカ州



ウイチョールの仮面
推／ナヤリット州

本展では、メキシコで出土した土器や石彫などの考古遺物、各地で脈々と受け継がれてきた技術を示す織物や工芸品などを通じて、古代から現代に至るメキシコの歴史を辿り、郷土色豊かな民族文化の魅力に触れていただきます。

その他、今から約三千年前にメキシコで栄えたオルメカ文明の遺産となる巨大石頭像の原寸大レプリカを十年振りに公開します。この像は、1955(昭和30)年から当館が現在地へ移転するまで「ペンタの首」の名で親しまれていたものです。創立80周年に合わせて装いを新たに生まれ変わった姿を是非ご覧ください。

また、会期中には様々な関連イベントをご用意しています。メキシコの歴史と文化を分かりやすく解説する記念講演会やトーク・サンコーカン、民族衣装を試着体験することができるワークショップなどを通じて、本展をより深く楽しんでいただければ幸いです。

◇後援／奈良県教育委員会、天理市、天理市教育委員会、奈良テレビ放送

◇協力／駐日メキシコ合衆国大使館、天理大学、天理大学附属天理図書館
◇参加／日本メキシコ交流400周年事業、平城遷都1300年祭事業

□■□関連イベント□■□

◇特別展開催記念講演会①

「古代メキシコの時空を駆けるウサギたち」

日時／5月22日(土)午後1時30分から

講師／山本匡史氏(天理大学教授)

◇特別展開催記念講演会②

「アメリカス世界を生きるマヤ人」

日時／6月19日(土)午後1時30分から

講師／初谷譲次氏(天理大学教授)

◇列品解説

日時／4月26日(月)・5月26日(水)・

6月25日(金)

※いずれも午後1時30分前から

会場／3階企画展示室

◇ワークショップ

「世界の民族衣装を着てみよう！」

期間／7月26日(月)～8月4日(水)

時間／・午前(10時～12時)

・午後(1時～3時30分)

※7月26日は午後のみ

会場／2階ホール

◇関連展示

写真展「太古が生きる露天市のアミーゴ」

提供／澤田尚幸(丹青社研究所)

会場／3階ロビー



創立80周年記念特別展

よみがえるヤマトの王墓

東大寺山古墳と謎の鉄刀

◇会期／9月22日(水)～11月23日(火祝)
◇会場／3階企画展示室

当館は1961(昭和36)年の年末から62年の年明けにかけて、天理市にある東大寺山古墳の発掘調査を行いました。調査では大量の鉄製武器類が出土し、その内1本の刀には、金で2世紀の中国の年号「中平」と刻まれていました。この刀は2世紀に中国から倭国に贈られた品と考えられます。その頃の倭国はまさしく卑弥呼が生きた時代にあたり、この刀は中国から卑弥呼に贈られた刀かもしれない、考古学的にきわめて重要な遺物です。卑弥呼の時代から150年以上もの時を経て、なぜかこの刀は東大寺山古墳に副葬されたのです。

発掘調査に先だつて、東大寺山古墳からは大量の腕輪形の石製品が出土していました。それらの石製品も重要な遺物であることから、出土品は一括で文化庁が保有することになり、収蔵場所は東京国立博物館と決まりました。そのため東大寺山古墳出土品は天理を離れ、東京に運ばれました。そして1971年には重要文化財の指定を受け、東



腕輪形石製品



東大寺山古墳出土の家形環頭

京国立博物館を代表する展示品として活用されてきました。しかし発掘調査報告書は刊行されな

いまま半世紀の年月が流れました。当館では、2007年度から3年にわたって日本学術振興

会の科学研究費補助金を得て、東京国立博物館とともに東大寺山古墳についての研究を行い、調査報告書を刊行しました。

当館の創立80周年を記念するこの展覧会では、東京国立博物館に所蔵される出土品の里帰りを實現し、当館が所蔵する出土品とあわせて一堂に会し、天理市出土の文化財を地元の方々にご覧頂くとともに、東大寺山古墳に関する考古学的研究の成果を広く公開します。

□■□関連イベント□■□

◇特別展開催記念講演会①

「卑弥呼と東大寺山古墳」

日時／9月25日(土)午後1時30分から
講師／金関恕氏
(大阪府立弥生文化博物館館長)

◇特別展開催記念講演会②

「東大寺山古墳の被葬者像を探る」

日時／10月16日(土)午後1時30分から
講師／白石太一郎氏
(大阪府立近つ飛鳥博物館館長)

◇列品解説

日時／9月27日(月)・10月26日(火)・11月21日(日)いずれも午後1時30分から
会場／3階企画展示室

◇今回の展覧会開催に併せて、発掘調査当時の貴重な写真を3階ロビーに展示します。

発掘調査(五)
イスラエルにおける
「テル・レヘシユ遺跡④」

テル・レヘシユ遺跡で採集された遺物が、キブツ・エンドールの考古博物館に多数収蔵されていることは本誌No.5でも述べました。この博物館の担当者のカルメルさんは、日本隊が1964年に初めてイスラエルの地で発掘調査を行ったテル・ゼロール遺跡の調査以来、お世話になつてきたモシェ・コハヴィイ先生(テル・アヴィヴ大学名誉教授)のお弟子さんで、今回のレヘシユの調査でも大変お世話になつておられる方です。

レヘシユの発掘を始めるに際して、カルメルさんのご厚意で、まず、博物館のレヘシユ出土の資料を調査することにいたしました。私たちが訪問したときには、大勢の子供達



ワークショップ参加の子供達

が博物館のワークショップに参加して勉強しているところでした。小さな博物館ですが、しっかりと地域に密着した活動を行っています。さて、レヘシユの採集品ですが、これらを見て驚いたのは、完形に近い土器などが多数含まれていて、しかも、前期青銅器時代からローマ時代までの各時期の資料が網羅されているということです。これらの資料からレヘシユの大まかな形成過程を知ることが出来ます。そして、それらの中にはエジプトのヒエログリフの記された石碑の断片やスカラベ形印章のほか、キプロスからもたらされた土器やアッシリアの金属器を模倣した土器などがあり、広くこれらの国々と対外交渉を行つていた当時のレヘシユの姿を彷彿とさせてくれました。このほかにも、他にあまり例のない神殿を模倣した土製品などがあり、レヘシユが祭儀の場であったことを教えてくれました。こうした、事前の調査などを実施した上で、いよいよ2006年の春にレヘシユに初めての鋏が入ることになったのです。(日野)



レヘシユで採集された遺物

周辺の見所 龍王山城

大和は平野部を国中、大和高原のある山間部を山内と呼びますが、それらを画する位置に龍王山(別名・弓槻ヶ岳・標高521m)がそびえています。当館の南東方向に見える山で、周囲の山より高く、特異な格好をしているのでよくわかります。その頂上に中世の山城である龍王山城が築かれていることは昔から知られ、今では登山道も整備されハイキングコースになっています。

龍王山城の国中の麓は柳本古墳群のある菅生・中山・上長岡(釜口長岳寺)町、山内側の麓は藤井町になり、藤井町との比高は130mにすぎ



ませんが、国中からの比高は高取城をぬいて大和随一の高さを誇っています。

城は北城と、そこより130m離れた南城とに分かれ、北城が本城、南城が最後の砦となる詰城です。天文年間(1532~55)に十市遠忠によつて築城され、そののち松永氏の城として用いられました。伝承では十市遠忠が城主として合戦の末、落城したことになるようですが、その形跡は史料面からはうかがえず、龍王山城は一度も合戦の機会を得ないで破却された城ともいわれています。(太田)

資料紹介 ビーズ綴りの胴衣 ルクス・カハ



台湾タイヤル族の民族衣装

台湾には中国人(漢人)が移り住む以前から様々な民族が暮らしていました。タイヤル族はその先住民族の一集団で、現在も台湾の北部から中部の山間部に居住しています。例品は、そのタイヤル族に伝えられてきた民族衣装です。赤と白を基調とした礼装用の衣装で彼らにとつて宝物とみなされていました。

タイヤル族には、以前は首狩り(出草)の文化がありました。この衣装は武勇を誇示する為に、首狩りを行った勇者のみが身につける事が許された袖なしの胴衣です。この衣装はシャコ貝の貝殻で作った小さなビーズに麻糸を通し、胴衣のほぼ全面に縫いつけられています。このような全面に貝ビーズを綴った胴衣は、5個以上の首を狩った勇者にのみ与えられたそうです。その貝ビーズの数はなんと約12万粒に達するとのこと。首狩りが廃れた後は、これを結納品として使ったり、畑や牛の購入の支払手段に用いられていました。貨幣の役割を果たし、富の象徴でもあったわけです。(早坂)

資料紹介 瘤牛形注口土器

灰色の胎土を用いた磨研土器です。補修された個所が多いのですが、全形は把握できます。カスピ海周辺に生息する瘤牛の形態を真似て作られています。瘤は誇張され、頸部も太くなっています。斜めに突き出した角は、やや小さめですが太くて力強い。これらとは対照的に、四脚と胴部は簡略化されていて、それがかえって瘤牛の持つ力量感・躍動感をうまく伝えていきます。嘴状に突き出した注口部から液体を出し入れます。この容器に入れられた液体は、瘤牛のみなざる神秘的な力が加わった聖なるものとなり、再び注ぎ出されることとなります。これと類似した形象土器がイランのギーラーン州にあるマルリク遺跡の18号墓から5体出土しています。死者の復活を願い、聖なる液体を注いだのでしょうか。



瘤牛形注口土器 イラン、ギーラーン

この資料は奈良県生駒市在住の方から2008年に寄贈して頂きました。この方は仕事の関係で、1960年頃に1年間、イランの首都テヘランに在住されました。その時古代オリエント学の大家である江上波夫氏と懇意となり、江上氏と一緒にテヘランの古美術商で購入されたものです。楽しい思い出話もお聞かせ頂きました。当時はこうした遺物も国外に持ち出せる時代でした。(巽)

発掘調査 布留遺跡範囲確認調査

1938(昭和13)年、初めて布留遺跡の発掘調査が行われて以来、おちばを中心としたおやさとは、大小の発掘調査が断続的に続けられています。

中でも、布留遺跡の調査研究に大きな転機となったのは、1976年から3カ年にわたって実施された「布留遺跡範囲確認調査」でした。この調査では遺跡全体に10m単位で碁盤の目状に地区を設定し、アルファベットの大文字・小文字と数字の組合せで、すぐにどの場所かが分かるようにしました。

従来、布留遺跡の始まりは縄文時代からと考えられていましたが、ナイフ型石器が出土したことで旧石器時代まで遡ることが分かりました。また、古墳時代の堀の石敷きや大型の掘立柱建物が発見されるなど、古墳時代を中心に栄えた遺跡であることも明らかになりました。

現在までに布留遺跡では40次を越す調査が行われ、新たな発見が相次いでいます。特に古墳時代中期から後期にかけて首長の居館や大型の倉庫群、玉類・鉄器・武器などの生産関連の工房址、韓式系土器など他地域との交流を示す資料がみられます。

布留遺跡は当時の奈良盆地では、大規模な都市と呼べるような地域であったのかも知れません。東の山裾にある石上神宮の成立や、古代豪族の物部氏とのかかわりなどが注目されています。(高野)

公開講演会 トーク・サンコーカン

広く一般の方々に当館をさらに身近な施設として利用していただき、諸文化の理解と教養を深めていただくことを目的とする公開講演会です。講演は、いずれも午後1時30分(受付は午後1時)から研修室にて。受講無料(入館料が必要)。

今年度は、創立80周年記念特別展開関連イベントとして講演会やワークシヨップの開催を予定しているため、トーク・サンコーカンの開催は5回となります。

第202回

「帰ってきたオルメカの石頭像」
◇月日／4月24日(土)

◇講師／梅谷昭範(当館学芸員)

当館で長年、「ベンタの首」の名で親しまれてきたオルメカ石頭像(レプリカ)が、特別展「神々の物語が息づくメキシコ―古代文明の記憶―」の開幕に合わせて10年振りに公開となります。

装いを新たに生まれ変わった石頭像にまつわる様々なエピソードと、未だバールに包まれた古代メキシコのオルメカ文明に関するこれまでの学説を紹介します。



当館が現在地へ移転する前に展示していた頃のオルメカ石頭像(レプリカ)

第203回

「ペルーの世界遺産

―空都市マチュピチュとナスカの地上絵―

◇月日／7月24日(土)

◇講師／中尾徳仁(当館学芸員)

南米ペルーにある「マチュピチュ」と「ナスカの地上絵」は、毎年多くの観光客が訪れる世界遺産です。今回は、2008年に現地では撮影した写真と共に、過去にペルーで発掘された壺や織物などの考古資料(当館所蔵)をご覧頂きます。

第204回

「物部氏の奥津城、

第204回

◇月日／11月27日(土)

◇講師／日野 宏(当館学芸員)

布留遺跡の南に位置する杣之内古墳群には、古墳時代前期から終末期古墳まで連続として首長墓が築かれています。その変遷をたどりながら、古代豪族の盛衰を考えていきたいと思えます。



マチュピチュ遺跡



イベント ワークシヨップ

キャンドルを作ろう

いまや誕生日のお祝いに欠かせないキャンドル。その由来は、ギリシア神話の月と狩猟の女神アルテミスの誕生日に、供え物と月の光を表すキャンドルを捧げたのが始まりとも言われています。当館創立80周年に、あなたの作ったキャンドルで華を添えていただけませんか。

◇月日／5月30日(日)

◇時間／午後1時30分～3時30分

◇募集人員／20名

◇材料費／400円(※入館料を含みます)

◇会場／研修室

◇担当／飯降美子(当館学芸員)

※ お一人様二つずつお作りいただき、一つはお持ち帰り用、もう一つは当館での展示用とさせていただきます。

「国際博物館の日」

毎年5月18日を「国際博物館の日」と定め、地域住民の幅広い参加を得て、博物館の存在理由を全世界の博物館とともに、それぞれの地域社会にアピールする機会として開催されています。

当館は、この趣旨に賛同し、5月19日(水)よりご来館されました方々に、記念品を配布する予定です。なお、記念品が無くなり次第終了させていただきます。

利用案内

開館時間 午前9時30分～午後4時30分

(入館は午後4時まで)

休館日 毎週火曜(休日の場合は休日後の最も近い平日)

ただし毎月25日～27日、4月17日～

19日、7月26日～8月4日は開館

創立記念日(4月28日)

夏期(8月13日～17日)

年末年始(12月27日～1月4日)

入館料 大人400円、団体(20名以上)300円、

小・中学生200円(※)

※ 学校単位の団体は無料。事前申込要

交通 電車/JR桜井線天理駅・近鉄天理線

天理駅下車 南東へ徒歩約30分

車/西名阪道天理ICから国道169号線を

南へ約3km 駐車場あり(無料)

その他 団体見学は事前にご連絡願います

世界の生活文化と考古美術の博物館

天理大学附属天理参考館

〒632-8540

奈良県天理市守日堂町250番地

Tel 0743-6318414

Fax 0743-6317721

URL <http://www.sankokan.jp>

携帯電話のサイトから情報をご覧いただけます

編集後記

ニュースレター第8号をお届けします。今号は今年度開催する当館創立80周年記念特別展「神々の物語が息づくメキシコ」「よみがえるヤマトの王墓」を中心に掲載しました。より多くの方々にご来館頂けるよう頑張っています。どうぞご期待下さい。(片山)



QRコード